

形成外科学

責任者・コーディネーター		形成外科学講座 櫻庭 実 教授			
担当講座・学科（分野）		形成外科学講座			
担当教員		櫻庭 実 教授、本多 孝之 特任准教授、小野寺 文 助教、東 修智 助教、新井 雪彦 助教、佐々木 孝輔 助教(任期付)			
対象学年	4	区分・時間数	講義	12コマ	18.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針（講義概要等）

形成外科学は、外傷、腫瘍、先天異常など様々な要因で生じた組織欠損や変形、機能障害を、機能的かつ形態的に修復することで患者のQOL向上を目指す、外科学の一分野である。その対象領域は初期臨床研修医がしばしば遭遇する四肢、顔面の軽微な外傷や小腫瘍から、Microsurgeryを用いた組織移植による再建外科や頭蓋顎顔面の骨切りを伴うCraniofacial Surgeryといった難易度の高い分野まで幅広い。本講義においては、臨床に役立つ局所解剖と創傷治癒の基礎について学習するとともに、疾患の病態、診断、基本的治療法から顕微鏡下手術までを幅広く学習する。課題が与えられたグループは、該当する講義までにプレゼンテーションを作成し、発表の準備を行っておくこと。

・教育成果（アウトカム）

形成外科に関連する疾患の病態とその診断法、治療法を学ぶことにより、一般の臨床医が有すべき形成外科学の基礎知識、ならびに国家試験コアカリキュラム関連項目の知識について説明できる。また、形成外科の疾患を学ぶことにより、疾病や障害を有する患者への適切な配慮と接遇態度について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	形成外科における対象疾患の範囲と形成外科的診療を説明できる。
2	創傷治癒過程を理解し説明できる。
3	皮膚縫合や局所皮弁の方法と原理、効果を図示し説明できる。
4	皮弁、植皮を含む組織移植の基本事項を理解し、その種類と特徴、生着過程が説明できる。
5	顔面・四肢外傷の病態と診断、初期治療に関する基礎知識を説明できる。
6	熱傷の病態と診断、初期治療を含む診療手技と予後について説明できる。
7	瘢痕・肥厚性瘢痕・ケロイドの病態と診断、治療にかかわる基礎知識を説明できる。
8	難治性潰瘍の成因と病態と診断、基本的治療について説明できる。
9	先天異常の病態と診断、治療にかかわる基礎知識を説明できる。
10	代表的な皮膚良性腫瘍、母斑症、血管腫、血管奇形の病態と診断、基本的治療を説明できる。
11	代表的な皮膚悪性腫瘍の病態と診断、基本的治療を説明できる。
12	マイクロサージャリーの概要と応用範囲について説明できる。
13	がん医療における形成外科の役割について説明できる。
14	体表に病変を抱える患者さんやご家族に対する適切な接遇について説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	目標番号
講義	5/14(金)	3	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	形成外科 概論	1
講義	5/14(金)	4	形成外科学講座	小野寺 文 助教	皮膚解剖と創傷治癒、瘢痕・ケロイド	2,7,8
講義	5/21(金)	3	形成外科学講座	東 修智 助教	形成外科における縫合、組織移植（植皮、皮弁）	3,4
講義	5/21(金)	4	形成外科学講座	東 修智 助教	良性腫瘍、母斑、血管腫、血管奇形、皮膚悪性腫瘍	10,11
講義	5/28(金)	3	形成外科学講座	新井 雪彦 助教	四肢・体幹の先天異常、四肢外傷	5,9,12,14
講義	5/28(金)	4	形成外科学講座	新井 雪彦 助教	顔面外傷	5,13
講義	6/4(金)	3	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	マイクロサージャリー	5,9,14
講義	6/4(金)	4	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	がん医療と再建外科	6,8
講義	6/11(金)	3	形成外科学講座	本多 孝之 特任准教授	熱傷・難治性創傷	2,4,5,6,7,8,14
講義	6/11(金)	4	形成外科学講座	本多 孝之 特任准教授	顎顔面の発生・発育と先天異常（唇顎口蓋裂、耳、頭頸部など）	9,14
講義	6/18(金)	3	形成外科学講座	佐々木 孝輔 助教 （任期付）	試験に関わる形成外科学（十小テスト）	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14
講義	6/18(金)	4	形成外科学講座	小野寺 文 助教	整容・その他の疾患（*特別講義となる場合があります：各領域の専門家をお招きし、専門的領域での診療のノウハウや研究、形成外科医としての姿勢と考え方などについてお話しいただきます）。	1,14

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準形成外科学 7版	平林慎一、鈴木茂彦 編	医学書院	2019
参考書	形成外科（新外科学大系29巻A-D、追補4冊）	福田修、宮本義洋、谷野隆三郎、波利井清紀、今村正之	中山書店	1987
参考書	図説臨床形成外科講座 全8巻	添田周吾 他編	メジカルビュー社	1987

推薦図書	Plastic surgery 3rd ed. 6vols	Peter C. Neligan	Saunders Elsevier	2013
参考書	Grabb's encyclopedia of flaps 4th ed.	Berish Strauch 他	LWW	2016
参考書	口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床	高橋庄二郎 著	日本歯科評論社	1996
参考書	よくわかる子どものための形成外科	中島龍夫編	永井書店	2005
参考書	手の外科の実際 改訂7版	津下健哉 著	南江堂	2011
教科書	TEXT形成外科学 改訂3版	中塚貴志 他編	南山堂	2017
推薦図書	形成外科手術書改訂第5版 基礎編・実際編	鬼塚卓弥	南江堂	2018
推薦図書	創傷のすべて	市岡滋 監修	克誠堂出版	2012
推薦図書	形成外科診療プラクティス 形成外科医に必要な皮膚腫瘍の診断と治療	山本有平 他編	文光堂	2009
推薦図書	形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際	百束比古 他編	文光堂	2010
推薦図書	使える皮弁術（上・下巻）	百束比古 他編	全日本病院出版会	2010

・成績評価方法

<p>【総括評価】 筆記試験6割、グループ学習発表4割で合算し、100点満点となるようにして、60点以上を合格点とする。</p> <p>【形成的評価】 グループ学習発表内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックを行う。</p>
--

・特記事項・その他

<p>*各講義時間内に、学生各班に課題を担当してもらい、ミニPBLを行う予定です。</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p>
--

・教育資源

教科書・参考書、講義室、実習室、図書館、顕微鏡、PC、インターネット環境、コンピューターソフトウェア、シミュレーター
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			